

講義コード	25468008	
担当者	林 宜嗣 教授	
研究題目	日本再生の処方箋を考える	
	<p>【ゼミのねらい】ゼミは、皆さんが社会で通用する人材になるための準備の場です。つまり、「論理的な思考」「分析」「プレゼンテーション」「聞く」「わかり合う」「助け合う」といったさまざまな「力」を身につけることがねらいです。そのために、日本がかかえる課題をゼミ生が自由に取り上げ、正しい現状認識、分析、議論を通じて、問題の解決策を考えます。その過程で素晴らしい仲間を作ることも大きな目的です。</p> <p>【ゼミの内容】研究演習入門の始めの段階では、新聞・雑誌等を材料にして発表し、ゼミ生全員で質問・討論を行います。昨年度は、各自が関心を持ったテーマのスピーチやグループで作成した旅行プランをパワーポイントを使って発表してもらいました（形式やテーマ、ゼミの運営方法はゼミ生が考えます）。これとは別に、ゼミ生が適宜選択した複数のテーマについての共同研究を進めていきます。3、4年生合同で実施した春合宿での研究テーマを紹介しますと、「中国人によるインバウンド消費」「タリーズコーヒージャパンへの経営提言」「若者の投票率向上」など多彩です。研究成果は学内外の合同ゼミナール、卒業生と現役ゼミ生がともに勉強する「林葉塾」などで発表し、冊子にまとめます。また、毎年、『研究演習Ⅲ』という研究誌を作成しています。これは、テーマの選定から、執筆、編集、印刷屋さんへの発注まで、すべてゼミ生の手で行うものです。</p> <p>【ゼミの運営】正規の演習以外に、春、夏には合宿（旅行も兼ねた）を実施します。研究演習Ⅰでの夏合宿は他大学との合同研究発表が中心です。昨年は北海道で6大学7ゼミ（琉球大学・鹿児島大学・島根県立大学・釧路公立大学・札幌大学）の参加でした。研究以外に毎年連続して実施しているものとしては、ゼミ旅行、大学祭への参加、コンパ、勉強を離れたゼミでの様々な企画があります。また、正月（毎年）の同窓会（林葉会）、関東林葉会で、卒業生との交流を深めます。先述の「林葉塾」も是非、楽しんでもらいたいと思います。研究演習はゼミ生が主体的に運営しますから、毎年、そのカラーは異なったものになっています。とにかく楽しんで、充実したゼミ生活を送ってください。林ゼミの活動の様子を知りたい方はゼミのホームページ（http://hayashizemi29th.jimdo.com/、http://hayashizemi30th.jimdo.com/）および経済学部のゼミ紹介をご覧ください。また、ゼミ（火曜日Ⅲ限、Ⅳ限）の見学も歓迎します。</p> <p>【応募者へのメッセージ】 過去の学業成績ではなく、社会に出る前の残された2年半、そして、内面的に最も成長するこの時期に何かやってみたいと思う人、自分達の手でゼミを作ってやろうと思う人の参加を希望しています。</p> <p>【選考に当たっての注意事項】 第1志望者が定員をオーバーしたときには、各方面でのゼミ活動に対する意欲を中心に、面接と面接用紙によって総合的に判断したいと思います。説明会のときに面接用紙を配布（研究室ドアにも準備）しますので、志望者は用紙を事務室に提出して下さい。</p>	
	受け入れ条件	面接用紙を提出し、面接を受けること。
担当者のプロフィール	専攻	財政学、都市・地域経済学
	現在の研究テーマ	都市再生、地域活性化、税制改革、地方分権、国・地方行政の効率化
	所属学会	日本財政学会、日本地方財政学会、計画行政学会